

さいたま市立植水小学校



# 学校だより

～創立136周年

〒331-0057 さいたま市西区中野林225-1

TEL 048-624-4235

FAX 048-624-2280

Webページ <http://uemizu-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail [uemizu-e@saitama-city.ed.jp](mailto:uemizu-e@saitama-city.ed.jp)

令和6年度 12月号 令和6年12月2日 発行

## 継続は力なり

さいたま市立植水小学校  
校長 保坂 泰司

R06年度 第2学期も残すところ、あと1ヶ月となりました。そして季節は冬となり、毎日寒い日が続くようになりました。こまめな手洗い・うがいなどして、体調管理に気を付けてください。

さて、先月の18日(月)に、日頃から子どもたちの安全面やよりよい成長のためにお力を貸してくださっている地域の方々(交通指導員・防犯ボランティアさん、図書ボランティアさん、お米農家さん)に感謝の気持ちを伝えるために「ありがとうの気持ちを伝える会」を行いました。一緒に給食を食べ、その後体育館で児童代表のことは、全員合唱で日頃の感謝の気持ちを伝えました。私からは、「感謝の気持ち」を伝えるのは難しい。こういった機会に「ありがとうございます」と言えればいいのか。そうではなくて、日々の態度で示していくことが大切であると子どもたちに伝えました。つまり、毎朝、交通指導員・防犯ボランティアさんに心の中で「いつもありがとうございます」の気持ちをもちながら、元気な声で「おはようございます!!」、自ら本に手を伸ばし進んで読書に励む、日々の食事で米粒一つも残さずに食べるなどを続けていけば、この行為自体が「感謝の気持ち」に繋がり、相手にも伝わる。何事においても、ひとつひとつ実直かつ、当たり前に取り組んでいくことが大切であると伝えました。より「あたたかな植水小学校・植水地区」なっていくと確信します。

【問題】子どもが14人、1列にならんでいます。ことねさんの前に7人います。ことねさんの後ろには、何人いますか。

続いて、最近「学力喪失 ～認知科学による回復への道筋～【今井むつみ 著】」という本を読みました。その中で、左記のような問題について書かれた箇所があります。本校の朝学習で取り組んでみました。「 $14-7=7$ 」「 $14+7=21$ 」「 $14\times 7=98$ 」

などの回答が見られるそうです。これは、①問題文の意味を理解、またはその場面を想起できない ②問題文に出てきた数字は全部使うなどと子どもたちは日頃から思っているということが原因と考えられるそうです。これらの誤答をなくすためには ①問題文には意味があることを理解する ②問題文の行間を埋めながらその意味を理解もしくは推論することが必要になります。さらに行間を埋めるためには、ことば(母語)についての知識と日常生活での多くの経験が重要なカギとなるそうです。そして筆者は「学校での学びに大事なものは、学ぶ内容をすでにもっている知識を使って、推論によって行間を埋めて理解し、知識を拡張させることだ。」と言っています。そのために、本校では「ことば(母語)」に対する関心を高めるために、主語や述語などの文法的事項を押さえ、日本語と外国語の違いに気づかせていきます。また、読書活動「自ら本に手を伸ばす植水っ子」の推進をしていくことで、ことばの知識を増やし、多くの(本の中での)経験ができるようにしていきます。本校の研修においても、これらのことを確認しながら子どもたちに学力の基礎的・基本的事項を定着させていきます。そして、問題の意味を正確に読み取り、解決に取り組むことができる「植水っ子」をはぐくんでいきます。